

# 第4回

## 社会実験《体験ドッグエリアのがわ》

2009年3月21日～22日

(3月22日は荒天のため中止)

### 実施報告書

野川ドッグエリアの会 事務局

1：実施の経緯

2：実施準備

3：実施状況

①当日の流れ

②入場した犬の数

③入場者の分析としつけ教室

④トラブル、苦情

4：総括と今後の展望

①参加者の声

②スタッフの声

③今後の展望

5：収支報告

別紙：当日配布チラシとアンケート用紙

●お問い合わせ先

fax. 03-3483-3284

## 1：実施の経緯

野川ドッグエリアの会(2006年3月25日に名称決定し正式発足)は、当初住民有志として2005年11月に署名活動を開始。世田谷区に、「成城4丁目29番地の野川緑地広場《周辺》地域に小規模なドッグラン《ドッグエリア》を整備してほしい」という要望を出した。2008年10月1日までに4回に分けて2634名の熊本哲之区長宛の署名(要望書)を提出した。

一方、世田谷区は、2006年3月9日付で「世田谷区における人と飼い犬との共生の検討について」とする文書を当時の「都市整備部街づくり推進課/世田谷保健所生活保険課」連名で提示、「2006年4月1日以降は、全庁横断的な検討会を始める」(当時の五十嵐土木課長)という姿勢を示した。その後、区は住民意識調査を開始。2006年7月には、会の役員に対して、「条件付で小規模なドッグランの実施を容認という意見が多かった」(みどりのみず政策担当部、井伊和子部長)という調査の中間報告を署名提出の席で行った。

会と区は、その後定期的な会合を重ね、2007年4月からは毎月1回、野川緑地広場内にある「財世田谷トラストまちづくり」ビジターセンター内の会議室を使って、《ドッグエリア》実現のための意見交換を重ねた。区の意向は、現時点では「仮設柵、フェンスなどにより仕切られた場所での、ドッグランの日時限定の試行を行うのが限界。いきなり、常設施設を作るのは難しい」というもの。対する会としては、あくまで常設の施設を要望したが、話し合いが平行線となつては意味がないので、まずは、社会実験として、《体験ドッグエリア》を行い、その実施状況や反響を見て、今後の方針を探るという点で一致した。

その結果、2007年10月6日～8日の3連休に午前、午後各2時間に限って、世田谷区喜多見9丁目29番地先、野川緑道横の広場役220㎡の敷地を使って実施することを決定。仮設柵、ネットなど、ハード面での資材は、砧公園管理事務所が中心になって公園緑地課施設係とともに準備することとなった。これが、第1回の「社会実験《体験ドッグエリアのがわ》」である。このときは、3日間にわたって、のべ203頭(飼い主の人数120名)の参加があった。

その、成功をもとに、第2回は2008年3月15日～16日の土日に実施。第1回は、午前と午後の時間帯ごとに、フェンスの移動を行ったり、その間に監視要員を配置したので、その労力を最小限にするため両日とも13時から17時までの4時間連続での開催にした。その中を、小型犬専用タイムと、フリータイムに、それぞれ分けた。また、第1回にない試みとして、プロのトレーナーによるしつけ教室を実施した。第2回は、犬の数のべ140頭、飼い主の人数100人(複数回利用を除く)の参加があった。また、第3回は2008年10月11日～13日の三連休に第2回と同様の時間帯で実施した。3日間での参加数合計は、のべ148頭(飼い主数の人数は132名)だった。

各回とも、会場でアンケートをとったが、多くの方が、この社会実験を楽しんでくれて、なおかつ、常設のドッグランを求める方が、利用者の9割を超えた。

その後、行政との話し合いを続ける中で、常設ドッグランへの実績づくりには、まだ、「体験ドッグ

エリア」の実績を積み重ねることが必要であると判断。今回2009年3月21日～22日の土日に第4回を、同じ場所で実施することになった。ただ、今回は、天候悪化が予想されたので、21日のみの開催になった。21日の4時間の参加合計数は、のべ65頭（飼い主の絶対数は60組）だった。今回、犬の数より飼い主の数が少ないのは、1日だけの開催だったため、複数回の利用がなかったこと、2頭3頭の多頭連れの飼い主が、ひとりで参加したのが3件あったことなどである。ただし、今回から人間の数は、人数ではなく組数で表示した。実際には、夫婦や家族で1頭の犬を連れてきて入場する場合も多く、犬65頭に対して、実際には概算で100名近い人数が利用したためである。

## 2：実施準備

資材は、前3回に使ったものを流用。設置準備についてもほぼ、経験済みとのことで、当日を待つことにした。資材置き場は、小田急線高架下の世田谷区所有地の一角にフェンスで囲んだ約10㎡の敷地を第1回の前に設置してあり、そこに置かれてある資材を使った。

地域住民への事前広報としては、喜多見連合町会を組織母体とする喜多見わんわんパトロール隊に協力を要請して、各町会の掲示板に合計25枚のポスターを掲示してもらった。また、成城自治会に対しては、会報「砧」へ投稿し、3月上旬回覧・配布された3月号に、告知と理解を求める文章を掲載してもらった。

また会の事務局が、ポスターを現地に3ヶ所、周辺地域に9ヶ所掲示したほか、約1500枚のチラシを会の役員らが喜多見、成城、狛江地区で配布。ほか、現地の野川対岸にあたる住宅地・成城4丁目の国分寺崖線下地域には、実施の約1週間前にマンションを含めてほぼ700戸に全戸配布した。

## 3：実施状況

### ①当日の流れ

3月21日(土)晴れ。天気予報で、翌22日の強風と雨が予想されたので、午前11時時点で21日のみの開催と22日の中止を決定した。すぐにメールマガジンで150名以上の関係者・購読者に通知したほか、ホームページにも告知した。正午すぎ。会の役員、協力者ら約10名が集合し、仮設柵などを設置。開始時刻の13時には、ほぼすべての準備を終えられた。17:00に実施終了し、17:30には重石を残して撤去終了。

地域の清掃活動を繰り上げ実施し、ごみは持ち帰った。野川沿道に設置したポスターは、その日の19時頃までに12か所すべて撤去した。

なお、会場となった場所の藤棚の柱に、1か所【3月22日(日)のドッグエリアは、強風と雨が予想されるため中止します】と書いた告知を掲示した(数日後撤去)。

実際に、22日は風速10m/秒を超える強風が吹く荒天になった。

## ②入場した犬の数

● ドッグエリア実施時間（21日）	犬の数（頭）	飼い主（組）
フリータイム(13時-14時半) A	20	20
しつけ教室(14時半-15時半) B	21	20
小型犬タイム(15時半-17時) C	24	20

各時間帯とも、会の腕章をつけたスタッフが当番として4名以上立会った。世田谷区からは、公園緑地課・横山係長が立ち会った。世田谷保健所からは、職員各1名が常に来場し、「うんちパック」や資料を配布。犬を連れている通行人や参加者へのマナー向上の啓蒙活動を行った。

しつけ教室開催時に、場内の滞在頭数が最大になり、30頭を超えた。

## ③入場者の分析としつけ教室

新規受付者には、犬1頭につき「利用票」というカード1枚を発行し、その累計が65枚（65頭）になった。

また、今回のしつけ教室（過去2回で各2日開催したので5回目）の時間帯は、参加頭数が30頭を超える盛況だった。鈴木潤（めぐみ）トレーナーは、ドッグランの中で犬をコントロールすることの重要性を話した後、犬たちを2つのグループに分けて、飼い主の指示に忠実に従うようにするための訓練を繰り返した。1時間余りのしつけ教室の最後に、犬同士のトラブルが発生した時の対処法について話した。ドッグランで飼い主が心得るべき注意点が多く盛り込まれていた。

## ④トラブル、苦情

トラブルは、まったくなく、事務局への苦情もなかった。ただ、2週間前の3月7日（土）に現地に掲示したポスター（A3縦カラーのポスターをラミネート加工し、4隅をハト目で留めて針金でフェンスに固定）が、3日後の3月10日にはがされて、なくなっていた。針金とハト目が残っており、何者かが引きちぎって持ち去ったものと思われる。対して、14日（土）に、5ミリ厚の板張りに四辺を粘着テープで密着させたポスター3枚を製作し、ドリルで開けた板の穴に針金を通して再設置した。これは当日まではがされなかったが、相変わらず《体験ドッグエリア》を快く思わない人物がいることは間違いない。

## 4：総括と今後の展望

### ①参加者の声

ほとんどの参加者が、会場を後にするときに「ありがとうございました」「お世話になりました」「楽しかった」といった言葉を、スタッフにかけて帰っていった。「どうしてもドッグランがほしいんです」

「ぜひ常設してほしい」と語った人も何人かいた。

今回は、入場時にチラシとアンケート用紙（別紙）をわたし、帰りがけに提出してもらった。ため、アンケートの回収数は46枚にとどまった（集計結果は別途後送）。

## ②スタッフの声

ボランティアを含めて、10名数名のスタッフの多くは、自分の飼い犬を連れてくるのも我慢して、当番の時間帯を担当した。それでも、ほかの犬が楽しそうに駆け回ったり、じゃれあったりしているのを見て、スタッフ同士「見ていると幸せな気持ちになる」「こうして、新しい飼い主さんと知り合いになると、地域の絆が広がる。いまは犬が多すぎて、散歩してすれ違っても挨拶すら交わさないから…」  
「犬がのびのびして、みなストレス解消になったようだ」と、全体的に肯定的な感想があがった。

## ③今後の展望

大きな課題としては、仮設柵、ネットの設置・撤去が重労働で、女性や高齢者が多い会のスタッフ・協力者だけでは、かなり負担が大きかったことがあげられる。世田谷区公園緑地課との昨年までの交渉では、新年度（4月以降）は、施設の改善によりもっと軽作業で設営できるようにする方向が確認されているので、具体的に実現に向けて動き、初夏を目標に毎月の開催開始を目指したい。

アンケートでも、常設の施設を望む声がたいへん強く、最終的には常設のドッグエリアをいずれかの場所に設置することが望ましい。

## 5：収支報告

収入	世田谷区補助金	40,000円	*1
	会の内部留保	13,540円	
	カンパなど	16,460円	
	喜多見わんわんパトロール隊から	10,000円	*2
		80,000円	

\*1 世田谷区の地域の絆再生支援事業補助金から

\*2 「しつけ教室」を共催にしたので講師料の共同負担金として

支出	しつけ教室講師料（1日分）	20,000円
	チラシ用紙、コピー代	35,000円
	張り紙、看板、消耗品	25,000円
		80,000円